

Dreamweaverの歴史

Dreamweaverは、高性能なWebオーサリングツールとしてデファクト・スタンダード(事実上の標準)になっています。

2005年にマクロメディアがアドビに買収されるまでは、アドビのGoLiveの競合製品として進化を続けてきました。

年	Dreamweaverのバージョン	内部 Ver.	主な追加機能
1997	Macromedia Dreamweaver 1		ラウンドトリップHTML
1998	Macromedia Dreamweaver 1.2		日本語版の発売
1998	Macromedia Dreamweaver 2		テンプレート機能、DynamicHTML
1999	Macromedia Dreamweaver 3		クイックタグ編集、Fireworksとのバンドル(Studio)
2000	Macromedia Dreamweaver UltraDeveloper 1.0		ASP、JSP、ColdFusionなどのアプリケーション開発
2000	Macromedia Dreamweaver 4		分割ビュー、拡張機能、ショートカットのカスタマイズ
2000	Macromedia Dreamweaver UltraDeveloper 4.0		Oracle、Microsoft SQL Server、CFMLに対応
2002	Macromedia Dreamweaver MX	6.0	Studioとして統合
2003	Macromedia Dreamweaver MX 2004	7.0	CSS 2.0への対応やテンプレートの強化
2005	Macromedia Dreamweaver 8	8.0	CSSの編集機能が強化、コードの折りたたみ表示 Adobe Creative Suite 2.3 Premiumにバンドル
2007	Adobe Dreamweaver CS3	9.0	Ajaxフレームワーク「Spry」
2008	Adobe Dreamweaver CS4	10.0	ライブビュー、Subversion対応
2010	Adobe Dreamweaver CS5	11.0	BrowserLab
2011	Adobe Dreamweaver CS5.5	11.5	jQueryの統合、PhoneGapによるアプリ作成
2012	Adobe Dreamweaver CS6	12.0	可変グリッドレイアウト、CSSトランジション設定支援

「dream(夢)をweave(紡ぐ)もの」、という風変わった名前は、開発時のコードネームがそのまま商品名になったもの



4



MX/MX2004



8



CS3



CS4



CS5/CS5.5



CS6

COLUMN

Dreamweaverに頼りすぎないこと

Dreamweaverは、デザインビュー／ライブビューを使用することで、結果をプレビューしながら編集作業を進めることができます。しかし、実際に行っている作業は、HTMLやCSSのソースコードを記述していくだけの作業です(自動的にソースコードが出力されている)。

Dreamweaverの支援機能を使うことで、ミスを少なく、スピーディーに作業することができますが、ソースコードを読む力、効率的でムダのないコードを書く力をつけることは、Dreamweaverの機能を勉強することとは、少し次元が異なります。たくさんのWebサイトのソースコードを見て、コーディングのトレンドを把握しながら、少しずつ力をつけていってください。

Webサイトの制作の目的は、ビジュアルデザインとしての質や美しいソースコードを追求することではありません。そのサイトを利用するユーザーにとっての価値や利便性を高めること、それによって、サイトの提供者の利益につながることを目的であることを決して忘れてはなりません。